

年 組 番 名前

教材 6 - B - (1) 近世の外交の様子

次の(ア)～(コ)の説明はどの時代のものであるかを、【表】の中の～から選び、番号で答えなさい。

【表】

江戸(1603～1867)					
安土・ 桃山 (1573～ 1603)	家康～ 家光 (1603～ 1651)	享保の改革 (徳川吉宗) (1716～ 1745)	寛政の改革 (松平定信) (1787～ 1793)	天保の改革 (水野忠邦) (1841～ 1843)	幕末(ペリ- の来航以降) (1853～ 1867)

【外交の様子】

- (ア) 尊皇攘夷の中心であった長州藩は、下関(関門)海峡を通る外国船を砲撃し、海峡を封鎖した。
- (イ) 幕府は、アヘン戦争で清がイギリスに敗北したことを知ると異国船打払令をやめ、寄港した外国船にはまきや水を与えるように命じた。
- (ウ) 対馬藩(長崎県)の努力で日本と朝鮮の間の国交が回復し、将軍の代わりごとなどに朝鮮通信使と言われる祝賀の使節が派遣されるようになった。
- (エ) 日本の渡航を許す朱印状を発行し、ルソン、安南(ベトナム)、カンボジア、シャム(タイ)などに朱印状を持った船(朱印船)の保護を依頼した。
- (オ) キリスト教に関係しない科学技術などのヨーロッパの書物の輸入を認めた。
- (カ) 平戸のオランダ商館を長崎の出島に移し、以後は中国船とオランダ船だけが長崎で貿易を許されるようになった。
- (キ) それまで独立国だった琉球王国(沖縄県)は、薩摩藩(鹿児島県)に攻められて服従したが、国際的には独立国で、明や清にも朝貢し、貿易を行っていた。
- (ク) アメリカ、イギリス、フランス、ロシア、オランダと条約を結び、函館、神奈川(横浜)、長崎、新潟、兵庫(神戸)の5港を開いて自由な貿易を行うことを認めた。
- (ケ) 南蛮貿易がさかんに行われ活版印刷術も伝えられ、聖書など布教に必要な書物や「平家物語」などの日本の書物がローマ字で印刷された。
- (コ) 明の征服をめざして諸大名に命じ朝鮮に15万人の大軍を派遣したが、日本の軍勢は苦戦し最後は全軍が引き上げた。

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)

(カ)	(キ)	(ク)	(ケ)	(コ)